

終活 ▶▶▶ 恋活 ▶▶▶ 街活 ▶▶▶

首都圏版 就活

学生たちのホンネ

ネットを駆使しつつ、不安な心を抱えて日々動き回る就活生。その姿が心配でならない親たち。本紙夕刊「キャンパス」編集部が石尾奈月さんの「首都圏大学東京3年」はこの微妙な時期の親子関係を取材した。

「おれの話、愚痴ばかりだなんだとどきどき」。石尾さんは、今春一橋大を卒業した先輩の男性から開口一番にそう言われた。彼は就活中、インターネットで業界動向や志望企業の情報を探っていると、母親から「パソコンはっかりやって」

「おれの話、愚痴ばかりだなんだとどきどき」。石尾さんは、今春一橋大を卒業した先輩の男性から開口一番にそう言われた。彼は就活中、インターネットで業界動向や志望企業の情報を探っていると、母親から「パソコンはっかりやって」

心配のひと言、逆効果

微妙な時期の親子関係

とってもナーバス。石尾さんは就活生の気持ちがよく分かるという。「心配で親が声をかけたくなるのは理解できるけど、『何も分かっていないのに口出ししないで』って言いたくありませんよね」
その石尾さんも最近、親との関係が気になり始めた。たまたま母親と就活の話になった時のこと。「出版に興味がある」と漠然とした希望を話すと、母親は「無理して就活はしない方がいいよ、バイトでもいんじゃないの?」とあっさり、「過度に期待されるのも嫌だけど、これじゃあ私が本当に困った時に応援してくれるか不安ですね。逆に

!」と小言を言われた。12月には、スーツを着て会社説明会へ行こうとする。「さう面接なの?、ちゃんと準備しなさいだめよ」と後ろから声が。母は面接は春からだとは知らなかった。一方、父親は「海外展開している企業じゃない」と言ったが、本人の海外体験は新婚旅行のみ。悪気はないと分かっている。それでも、頑張ろうとする気持ちに折れそうになったという。



パパママ真剣 東京都千代田区の法政大学新生保護者対象キャリアセンターガイダンスで、稲田佳代撮影



【稲田佳代】

大切ですが、でも就活は社会へ踏み出す一歩だから、親が一生懸命になりすぎたり、就職ガイダンスに出たりするのはどうなのかな。心配してくれる気持ちは分かるので、就活の大まかなスケジュールやどんな業界を目指しているかくらいは、早めに説明しておいた方が安心してもらえそうだと思います」

編集長の一言
うちに大学生の娘がおりますが、就活の話はあまりしませぬ。向こうがしてこないとオヤンも我慢。